

大学院生プロジェクト型研究・研究成果報告書

研究代表者：石井 大輝（生涯教育科学コース）

■ 研究題目
近世近代移行期における人間形成の構造的変容 —明治期の府県庁文書を用いた変容過程の分析—
■ 研究代表者・分担者 氏名
石井 大輝（生涯教育科学コース）（代表者）
■ 研究成果概要（目的、実施内容、結果、今後の課題など）
1. 目的 本研究の目的は、明治期の神官が府県庁へ提出した履歴書によって、近世近代移行期の神官が有した学習歴の実態を明らかにすることにある。 近世期から明治初期にかけての神官は、漢学者や国学者、医者、僧侶などと並ぶ「地域文化人」の一員として、地域社会における文化的、教育的営為に幅広く関与していたことが知られている（鈴木理恵『近世近代以降期の地域文化人』塙書房、2012年）。一方で、明治期以降、神社が国家の管轄下に置かれたことに伴い、神官もまた、国家との関わりを深めていくこととなる。地域と国家の狭間にあつて、近世期との連続性、非連続性のなかを生きた明治期の神官については、教育史のみならず、宗教史、政治史、文化史ほか、種々の観点から、解明が待たれているところである。 明治4年以降、神官の任命権は国家が掌握し、神社全体の大多数を占める中小神社の神官の任命権は、地方官に委ねられた。神官の任命にあたっては、当該神社の氏子らが神官候補者を推薦し、氏子らが提出した推薦書に基づいて、府県庁の担当者が候補者の適否を判断する仕組みが整えられていく（拙稿「明治期日本における神官と職の継承」（東北教育哲学教育史学会『教育思想』第46号、2019年3月刊行に掲載予定）。 国の法令上、神官候補者の推薦に際し、神官候補者の履歴書の添付が義務付けられるのは、明治28年の内務省令第10号「府社県社以下神社神職登用規則」以降のことである。しかし、宮城県においては、明治19年以降、候補者の履歴に言及した推薦書や、別紙として履歴書を添付した推薦書が提出されている。 筆者はこれまでに、明治19年から明治30年にかけて宮城県庁へ提出された、神官の履

歴書 296 通を収集した。本プロジェクトでは、それらの史料の内容分析を進めるとともに、宮城県以外の府県庁文書における、神官履歴書の残存状況の調査を実施することにした。

2. 実施内容

- ・ 東京都公文書館における史料調査

2018年9月28日、12月17日、18日実施。

- ・ 福島県歴史資料館における史料調査

2019年2月13日実施。

- ・ 宮城県公文書館所蔵史料の内容分析

研究期間を通じて実施。

なお、本研究による成果の一部を教育史学会第62回大会にて報告した（「明治期の神官履歴書に見る地域知識人の学習歴」、2018年9月30日、一橋大学）。

3. 結果

- ・ 宮城県以外の府県庁文書における神官履歴書の残存状況

史料調査を実施した東京都公文書館および福島県歴史資料館において、それぞれ東京府庁文書、福島県庁文書のうちに、明治期の神官履歴書が含まれていることを確認できた。

- ・ 宮城県公文書館所蔵史料の内容分析

明治19年から30年までに宮城県庁へ提出された神官履歴書計296通について、下記の【表1】にまとめた。

【表1】宮城県公文書館所蔵史料における神官履歴書の残存状況

	のべ件数	重複除く	学習歴有	簿冊名
明治19年	14	14	14	明治22-0005『社寺－神職, 明治19～22年』
明治20年	9	9	9	
明治21年				
明治22年	23	23	23	
明治23年	7	7	7	明治24-0003『社寺－神職, 明治23～24年』
明治24年	10	10	10	
明治25年	29	28	27	明治25-0002『社寺－神職』
明治26年	19	17	16	明治27-0001『社寺－神職, 明治26～27年』
明治27年	12	10	8	
明治28年	51	40	34	明治28-0002『社寺－神職』
明治29年	48	23	20	明治29-0002『社寺－神職』
明治30年	74	35	34	明治30-0003『社寺－神職』
合計	296	216	202	

重複を除いた216名分の史料のうち、学習歴に関する記述を有する202名について、生年年代別の人数を示すと、【表2】の通りとなる。

【表 2】 生年年代別人数

生年	1810年代	1820年代	1830年代	1840年代	1850年代	1860年代	1870年代	不明	合計
人数	2	12	21	34	60	41	18	14	202

文化文政年間から、明治生まれに至るまで、かなりの広がりがあるが、明治 20 年代におよそ 40 歳台から 50 歳台となる幕末生まれが全体の約半数を占めている。

これら 202 名の履歴書において、学習歴は、総計 500 件記録されていた。その内訳を【表 3】に示す。

【表 3】 学科名・学校名集計

学科名				学校名			
皇学系	漢学系	その他					
皇学	97	漢学	109	数学	5	小学校・	44
皇漢学	28	和漢学	8	普通学	5	師範学校	
国学	23	他23種	28	算術	4	等	
皇典学	21			習字	4	中教院・	30
皇典	20			仏学	2	皇典講究	
他29種	48			他21種	24	分所等	
小計	237	小計	145	小計	44	小計	74
				全85種	426	全54種	74
				総計		全139種	500

全体の約 85%を学科名、すなわち、師匠に就いて学んだ記録が占めている。一方で、士官養成機関としての性質を持つ、中教院や皇典講究分所の出身者も一定数見られた。

【表 4】 師匠名集計

出現回数	1回	2回～4回	5回以上	(合計)
人数	210	27	11	248
件数	210	95	121	426
件数小計	210		216	426

【表 4】によると、全 248 名の師匠のうち、210 名は 1 回しか出現しておらず、複数回出現したのは 38 名に限られていた。件数にすると、1 回のみ出現の師匠と、複数回出現の師匠で、およそ半々となっている。

複数回出現した師匠のうち、5 回以上出現した 11 名について、弟子の出身郡区別の人数を集計したのが、次頁の【図 1】である。

履歴書だけでは、その性質上、師匠の所在地を正確に把握することは困難であるが、文字通り郡区を越えて弟子が集う師匠の存在が浮かび上がった。宮城県の北部に位置する、栗原、登米、本吉の各郡は、いずれも広大な面積を有した郡であり、総じて、【図 1】か

ら、学びの階梯を通じて広域的なネットワークが形成されていた可能性が示唆されるといってよいだろう。

【図1】 頻出師匠の弟子出身郡市

菅原春蔭(5)		鍋島真実(5)		鈴木東平(12)		永澤安兵衛(25)				
栗原		遠田	登米	登米		本吉				
5		1	4	12		25				
飯田武夫(6)			鍋島一郎(7)			大貫真浦(9)				
志田	栗原	登米	志田	登米	本吉	登米	本吉			
1	4	1	1	4	2	1	8			
鈴木貞次郎(12)				三好清徳(16)						
仙	宮	黒	栗	仙	柴	宮	黒	登	桃	
台	城	川	原	台	田	城	川	米	生	
1	4	5	2	3	1	1	4	2	5	
堀武治(5)		沼田仲(20)								
名取	宮城	仙	刈	名	加	玉	栗	桃	牡	本
2	3	台	田	取	美	造	原	生	鹿	吉
		1	1	1	1	4	5	5	1	1

4. 今後の課題

府県庁文書における神官履歴書の残存状況については、東京都と福島県で新たに史料を発見するに留まり、それらの詳細な分析や、宮城県のものとの比較など、多くの課題を残すこととなった。今後、さらに調査の範囲を広げ、全国規模での残存状況の把握につとめたい。

また、宮城県公文書館所蔵史料の内容分析に関しても、全体状況の把握を試みたに過ぎず、通時的な変容過程の分析には至らなかった。当然のことながら、履歴書には、学習期間の記録も残されている。今後、時間軸の導入により、神官の学習歴が構造化されるパターンの変化や、学習歴が織りなすネットワークの変容過程を明らかにしていきたい。